

多可町総合教育会議要旨録

令和5年度 第2回

1. 開催日 令和5年11月22日(水) 午後2時45分～午後4時30分

2. 場所 多可町役場 特別会議室

3. 出席者

| | |
|-----|--------|
| 町長 | 吉田 一四 |
| 教育長 | 越川 昌信 |
| 委員 | 安藤 和志 |
| 委員 | 岩田 光代 |
| 委員 | 木俣 美代子 |
| 委員 | 名生 陽彦 |

4. 陪席者

| | |
|-----------------|-------|
| 企画秘書課長 | 吉井 三博 |
| 教育担当理事兼教育総務課長 | 金高 竜幸 |
| 学校教育課長 | 吉田 勇二 |
| 生涯学習課長 | 藤原 徹 |
| 学校教育課副課長 | 吉川 成悟 |
| こども未来課副課長 | 高橋 敏 |
| 企画秘書課副課長 | 新田 順子 |
| こども未来課社会教育主事 | 杉原 光平 |
| 八千代小学校学校運営協議会会長 | 渡辺 進 |
| 社会教育委員会委員長 | 松本 壽朗 |
| 松井小学校長 | 橋本 衛 |
| 教育総務課課長補佐 | 吉井 美和 |
| 教育総務課主査 | 有田 好孝 |

日程第1

会議録署名委員について

日程第2 協議事項

- (1) 学校・家庭・地域の連携について
 1. 趣旨説明（学校教育課）
 2. PTCAフォーラム意見交換のまとめ（社会教育主事）
 3. 関係機関の現状
 - ・八千代小学校コミュニティ・スクール（渡辺会長）
 - ・社会教育委員会（松本委員長）
 - ・学校現場（松井小学校長）

- (2) 意見交換

日程第3 その他

【開 会】

町長あいさつ

皆さん、こんにちは。教育委員会に続きまして、第2回総合教育会議ということで、大変長時間会議でお世話になっているところでございます。本日は雲一つないよい天気ということで、いろいろなイベント等も無事に行われているところでございます。今日22日の午後からと23日が金比羅さんということですが、最近コロナで3年ほどできていません。久しぶりに役員が奔走して今夜の準備をされているところです。

先週の土曜日中町北小学校で長年続きました子ども歌舞伎の最終公演ということになりました。私も3人子どもがいますが、演者をさせていただいたことがあり、非常に寂しい思いでした。大勢の地域の方に見に来ていただき、別れを惜しんでいただいたことと思います。少子化ということで子どもたちが減っていく中で、やむを得ないのかなと思います。大変寂しい思いをしたところでございます。

そして今日ですが、今朝から神戸の方に行っておりまして、三上公也さんのラジオ番組に出ておりました。多可町のPRを20分ほどさせていただいたのですが、打ち合わせをしていた原稿が終わった段階で20分のうち13分でした。あと7分どうするのかと思いましたが、三上公也さんは多可町をよくご存じで、私にいろいろ聞かれるわけですが、答えられないと恥ずかしいですから必死になって答えました。その中で生涯学習センターの建築についてもお話させていただきました。今、基礎工事を行っており、生涯学習センターを実際にお使いになるグループの方にワークショップで愛称を募集をして、その愛称を決めていただきました。その愛称が「あすみる」、Asmileと書いてあすみると読ませるということですが、隣がアスパルですので、アスパルとあすみるとして皆さんに楽しんでいただければと思います。ラジオの中でもそういう紹介をさせていただいたところです。

そのような中で、今日教育総合会議として、まず家庭といたしましては基本的な生活習慣を身につけるといふこと、SNSをはじめ、いろんな意味で家庭の重要性といふのは再認識されていることが多いと思います。子どもたちの教育を家庭にもしっかりと責任をもってほしいといふことを私も実感しているところです。

加えまして、地域といふことですが、中学校の部活動の問題です。中学生の部活動を地域の方をお願いするといふことが方向性として出ております。稲美町の前町長も今の町長も友達なんです、稲美町は非常に小さいサイズですから、昔ありましたスポーツ21といふ各小学校ごとに活動していたその団体が非常にしっかりしてしまっていて、既にいろんなスポーツをやっているといふことで、「スポーツ21に任せることでうまくいきます」と町長が言ってました。我々の町はそこまでではないといふことですので、また力を合わせながらやっていかなければならないと思ふところです。このように学校と家庭、地域の三者の連携が強化された延長線上に、真のふるさと教育が展開できると考えておりますので、今日この後、各機関の現状として三者の方からご報告を賜るわけですが、多可町らしさの中で子どもたちの教育環境を整えていくヒントを探ってまいりたいと思ふますので、よろしくお願ひいたします。

日程第1

会議録署名委員について

岩田委員と名生委員を指名

日程第2 協議事項

(1) 学校・家庭・地域の連携について

1. 趣旨説明（学校教育課）

学校教育課長：まず前提となるお話からさせていただきたいと思ふます。趣旨といふことですが、少子高齢化、地域の繋がりや減少、発達障害や貧困といった福祉的な課題の増加など、学校が抱える課題が複雑化多様化する中、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもの育ちを支えていくことが求められているところです。学習指導要領でも、地域と学校が互いに連携・協働しながら未来のつくり手となるために必要な力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現することが求められております。そのためには、組織的、継続的に地域と学校が連携・協働していくことが重要です。

ここから資料に沿った説明に入ります。地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みを作っていくことが求められているところです。これは学校・家庭・地域の連携の部分になります。図を見ていただきますと、学校教育があつて、家庭教育の支援があつて、社会教育があるといふことなんです、社会教育の中に地域学校協働活動というのがあります。この地域学校協働活動ですが、社会教育がハブとなつて地域の高齢者や成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、子どもの成長を軸に地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働していく様々な活動を示しております。

次にPDCAと書いてある資料についてですが、右端は地域学校協働活動で、多可町でも、授業補助やふるさと学習、読み聞かせや登下校の見守り等で地域住民にご協力いただいている部分になります。図の左にある学校運営協議会につきましては、多可町内全ての小学校で令和4年度より学校運営協議会を設置している学校ということでコミュニティ・スクールとなりました。それにより、地域住民が学校運営に参画し、学校関係者評価など、PDCAサイクルを回したり、学校や地域の困り事など、膝を突き合わせて協議したりしています。そして、その困り事等の解決のために具体的な活動として、地域学校協働活動に繋げるなど、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な運営を図ろうとしているところです。現在は、内容的には地域から学校に向けての支援が多い状況ですが、先ほど学校を核とした地域づくりと申し上げたように、例えば学校の子どもたちが地域に出て行ってボランティアをしたり、地域の方と一緒に活動したりするなどして、地域住民の一人であるということが実感できるような取り組みも考えられると思います。学校から地域の外向きの活動により、学校と地域の双方向の連携を図って互いにウィンウィンの活動が広がることにより学校も地域の元気になるとということが期待できると思います。ここが大きな趣旨になると思っております。

次にコミュニティ・スクール（イメージ）の資料がありますが、これは多可町で作成したものです。裏面に子どもにとっての魅力、教職員にとっての魅力、保護者にとっての魅力、地域の人々にとっての魅力というところがあります。それぞれにとって魅力ある活動に繋げていける、そういった可能性のある活動ということで、令和3年度から4年度にかけて周知を図らせていただいた時の資料です。

記者発表資料と書いてある資料をご覧ください。昨年度、多可町で最初にコミュニティ・スクールの開始した八千代小学校が文部科学大臣表彰を受けた際の資料です。

詳しくは後ほど渡辺会長からもお話があると思いますが、ふれあい交流会や補充学習、コスモス畑の整備など、学校を支援するとともに活動の継続が課題であった鼓笛指導を地域住民が担う仕組みをつくることで、持続可能な活動に繋げていることが評価されているということです。

最後の資料は、現在進めています中学生のスポーツ・文化活動の地域展開いわゆる学校部活動の地域移行の資料です。統合中学校が開校する令和8年度を目標に、学校部活動を廃止し、多可町で中学生のスポーツ・文化活動を支えるために、「スポ・カルたか」を設立し、コーディネートを行う仕組みづくりに取り組んでいきます。こちらは広報12月号に掲載予定です。学校教育課からの説明は以上になります。

2. PTCAフォーラム意見交換のまとめ（社会教育主事）

社会教育主事：11月1日に多可町PTCA子育てフォーラムを行いました。例年ですと、各校PTAの実践発表の後、講師をお呼びしての講話という形になっていたのですが、今年のPTCAフォーラムについての会議を行ったときに、「自分たちの現状を知ってもらいたい」という声がありまして、今年は少し形を変えて行おうということになりました。パネルディスカッションを皆さんで行おうということになり、コーディネーターとして南あわじ学ぶ楽しき支援センター所長の大本晋也さんをご紹介いただきました。大本さんは、高校の教員をされたり、国立淡路青年の家の専門職員や所長も歴任されたり、県の教育委員会で社会教育行政に携わったりされている方で、社会教育に

とても明るいということで来ていただきまして、コーディネーターとしてお世話になりました。

PTCA子育てフォーラムは例年行っていますが、Cのコミュニティ、地域の方にはいつもなかなか参加していただけないという現状もありました。今年は地域の方も来ていただくということで声掛けして、皆さんでグループディスカッションを行いました。その中で、三つの点について話し合いました。

一つ目、地域が入りやすい学校の在り方とは。これにつきましては、コロナ以前にはあった関係性が、コロナ禍で失われてしまったということで、地域の方が学校に入りにくくなってしまい、また、PTAの方もなかなか入りにくくなったということでしたので、話題とさせていただきます。

二つ目、保護者にとって、どのような条件をクリアできればPTAの活動がしやすくなるか。PTA活動とは書いてありますが、地域の方の活動（子ども会、老人会など）も含めて、どうしたらいいかということも言われていました。

三つ目、学校の教育活動を円滑に進める上で、PTAが担うこと、地域が担うこと、行政が担うことはどういうことだろうか。互いの強みを生かし、より効果的な教育活動にしていくためにはどうしたらいいだろうかということで話をさせていただきました。

次のような意見が出ました。

①地域が入りやすい学校の在り方とは

- ・地域の方がボランティアでの支援や得意なことをゲストティーチャーとして子どもに指導ができたらいいのではないかな。
- ・学校の様子ができるように、学校での困り事を情報発信していただき、また地域は応援できることを学校に知ってもらうなどできたらいいのではないかな。
- ・子どもたちが卒業した後もイベントやボランティアで学校に行く機会があったらいいのではないかな。
- ・学校行事への参加を呼びかけていただき、地域の参加者を募っていただきますが、地域の方が学校へ行かれても、卒業式などで来賓として仰々しく紹介するのではなくて、「地域の方々です」というような形で簡単に気軽に説明していただけたらありがたいのではないかな。
- ・地域の人と教職員、子どもたちの間に顔が見える関係がある学校があればいいのではないかな。
- ・どこの子どもさんであるとか、そういうこともなかなかわからない関係になっている。知り合いの家庭の子どもさんに声かけができたり、挨拶して関係性が広がっていったらいいな、どこの人かわかったらいいと思う。
- ・地域の子どもや保護者との交流、地域の方も参加できるようなイベントを行えたらいいと思う。
- ・校舎内に地域の方も入れるようなスペースを設けたら、入りやすいのではないかな。例えば、地域の方も利用できる図書館、カフェや野菜などを売ることができるお店なども、学校の中にあったら入りやすいのではないかな。

②保護者にとって、どのような条件をクリアできればPTAの活動がしやすくなるか

- ・一番はやっぱり楽しく活動できるようにしてほしい。
- ・毎年、前例踏襲ではあるのですが、そうではなくて、どういうことをしたら喜んでもらえるだろうかという話ができたらいいと思う。
- ・PTAは充て職があり、町の会議にも出席していますが、見直していただいてなくせるものはなくしていただけたらありがたい。オンラインも使用できたらありがたい。
- ・どうしても会議などを欠席しなければならない時は休めるようにしていただいて、参加可能な人が参加できる形にしてもらえたらありがたい。
- ・責任や仕事の一部の役員に偏らないようにしてほしい。卒業式や入学式での挨拶をなくしたり、会議の負担を少なくしたりしてほしい。
- ・実績に応じて報酬が出たらありがたい。三役会や会議など出席したものにに応じて少しでもいただけたらうれしい。
- ・地域の方・コミュニティの方もPTA活動に参画し、卒業後も関わられるようにしてもらえたらいいと思う。

実際に加東市の東条学園では、学校運営協議会の会長さんがPTCAの会長になられて、従来の会長がPTCAの副会長になられているそうです。そのPTCAの副会長は町外の会議にはPTA会長として出られるということを言われていました。

③学校の教育活動を円滑に進めるために担うこと、できること

- ・学校がしてほしいことをリストアップし、できることから助ける。
- ・できる人ができることをできる時間に気軽に行えたらいいと思う。
- ・ありのままの大人の姿を見せることで、子どもたちにとって多様なモデルとなるのではないか。
- ・得意な分野でのゲストティーチャーとして支援ができるのではないかと思う。
- ・少子化で大変人数が少なくなっていますが、掃除の面積は従来のままということで省力化できたらどうかなど、ロボットに任せられるところは任せられたらいいのではないか。
- ・子ども・教員・保護者・地域の皆さんがお互いを思いやり、尊敬できる関係性が築けたら、より良くなるのではないか。

大本先生の最後の話として、「たくさんの方で話し合う場があれば、試行錯誤することで解決のヒントになる。ありのままの自分でそれぞれの人ができることを一つ一つすることで、地域の教育力が上がる」ということを伺いました。そのような形で、PTCA子育てフォーラムを終了しております。参加者の方から、「良いフォーラムだった」「一方的に話をするのではなくて、お互いに話ができるということがすごくありがたかった」という声を聞いております。以上です。

町長：PTCAフォーラムではいろいろな意見が出ているんだと思いますし、最後に地域の教育力というのは一つの大きなキーなのではないかなと思います。

続きまして3番目の関係機関の現状ということで、八千代コミュニティ・スクールについては会長よりお願いします。

3. 関係機関の現状

○八千代小学校コミュニティ・スクール

学校運営協議会会長：コミュニティ・スクールが始まった時に、「一体何をしたらいいんや」というところから始まっているんですが、初めに、校長も含めて学校の職員全員と話し合いをしようということで、メンバーと話し合いをしたのがスタートです。

先生たちは一体どんなふうに思っているのか、現状や課題も含めて、そして学校の1年間の取り組みも校長の方から、映像を交えて話してもらいました。メンバーの中には、ほとんど学校に来たことがないという人は当然おります。メンバーは、PTA関係が半分、そして地域からは半分という感じですね。私が学識経験者ということで代表になっておりますが、ほとんど学校のことを知らないという人もいました。それを見て、「学校が困っていることって一体どんなことだろう」「先生方が指導に困っている」とか、いろんなことを聞くことから始めました。その中から出てきたのは、例えば、ミシンの授業が非常に困っているということでした。「1人でとてもできないと思うので、お手伝いしてもらったらありがたい」という声がありました。あるいは「花壇をちょっと鋤いてもらったら非常に助かるし、花壇の植え替えなんかも地域の方々に手伝ってもらったら嬉しい」というような声がありました。そして、夏休みの学校の取り組みの一つに、夏休みになったらすぐ子どもたちの補修授業があり、先生たちが夏休みに何日か来て勉強を教えていました。そういう状況を見て、先生は夏休みも指導をしているのかというそういう声もあって、そして、我々は学校の応援団である、地域の応援団であるというスタイルをとっておりますので、まずそこから始めようかということにしました。最初の年から、1週間ほどですが、夏休みの補習学習をコミュニティ・スクール主催で行っております。コロナ禍もありましたから、いろいろ形を変えながら、今年まで続いております。ミシンの授業のお手伝いも花壇の関係も続いております。

それから、元々地域（中野間花の宮）に花の会というグループがありまして、小学校の入口にコスモスを植えてくれるなど、いろんなことを10年以上やっていたんですが、みんな高齢化してしまったので、コミュニティ・スクールのメンバーで続けてやってくれないかと頼まれまして、引き受けました。それが年によって大変で、今年は5割ぐらいしか咲いておりませんが。「コミュニティ・スクールというと草刈か」という感じのところもありますが、やはり年に3、4回は草刈りをしないとイケませんし、トラクターの方はお金を出して依頼して、3回ぐらい鋤いてもらっています。

また、鼓笛をどうするのかということが一つの八千代小学校の課題でありました。八千代北小学校時代から、是非これは残したいという希望が非常に強く、学校としても残すという考えではありましたが、いつ誰がどのように指導していくのかということが一つの大きな課題でした。そこで、昨年度から子どもたちに知らせたり、プリントを出したりするようなコーディネーター役をコミュニティ・スクールのメンバーに迎えまして、コミュニティ・スクールの活動として、昨年度から行っております。それ

らが評価されて、表彰されるということになりました。かと言いましても、これでコミュニティ・スクールがうまくいっているかと言えばそうではないです。

元々言葉は違いますが、「開かれた学校づくりというのは、もう20年も前から学校の中にあり、いろんなゲストティーチャーを呼ぶ、地域に出ていくという中での学びというのを、学校教育は非常に重視していました。それが学力テストやその他の問題で、だんだん縮小されましたが、今度またコミュニティ・スクールという形で復活といいますか、またいろいろなところに戻っています。だから、私自身は以前行っていたことであり、地域との関わりは今の方が少ないです。もっとももっといろんなことをしていました。例えば、八千代区で言いましたら、3校とも米作りをしていました。米の田植えを体験し、収穫して楽久園に寄付するなど、いろいろな活動をし、餅つき大会も行っておりました。でも、私がコミュニティ・スクールということで、学校へ復帰すると、全てそれらはなくなっておりました。そういうような学校自体、また国自体の一つの流れと、或いは今逆に地域の学校として、持続可能な学校ということからコミュニティ・スクールが出てきておりますが、本当に何をするのがいいのか迷っているのが今の実情です。八千代区に関して言いましたら、北小学校、南小学校、西小学校はもっと垣根が低かったとみんな言います。地域に支えられて運動会も行い、いろいろなことをしましたが、南小学校までとなるとなかなか行きにくくなっている。それらのバリアをできるだけ低くして、地域の中で何かできないか、コミュニティ・スクールとして何かできないかと手探りでやってきておりましたが、実際のところは満足いくようなことはできていません。ですが、最初に述べたように学校の応援団として、先生たちが少しでも「皆さんがいるから助かった」と感じられ、子育て、子どもの育成がうまくいくようにと、今のところは応援しているような状態です。

簡単ですが、以上です。

町 長：ありがとうございました。大変お世話になっているところでございます。物理的にも精神的にも学校と地域の垣根というのは確かに意識していかなければならないことだと思えます。

続きまして、社会教育委員会の方から委員長お願いいたします。

○社会教育委員会

委員長：社会教育委員会ではこのようなテーマで話したことが少ないので、全て網羅できているかはわかりませんが、社会教育委員会の立場というよりも社会教育の立場で話をさせてもらいます。

この多可町の社会教育といいますと、2回大きなうねりを迎えています。1回目は、平成17年に三つの町から多可町になったという大きなうねり。地域の特色とか八千代町、加美町、中町の人材やいろんな資源を生かした学校開放・開かれた学校については、国が定めたものと同じことはしましたが、それぞれ手法は違っていました。それ

を合併するからといって、一度にできるものではありませんから、まずここで大きなうねりがありました。今、田んぼのことも出ましたが、社会教育との接点の度合いについて揉めたことがあります。上に設定するのか下に設定するのか。申し訳ありませんが、歌舞伎が先端を行ってました。世間から注目を浴びる開かれた学校、それから地域の特色を活かした教育、そして、人材を活かした教育、合わせてふるさと教育と、よく見ればどこもやっていたのですが、目立ち方がちょっと違ったものですから、このあたりの調整が難しかったことがあります。

2回目のうねりが、平成20年の教育三法です。これは学校教育法と教育基本法とか、地域行政の社会教育も含めた組織の変化があった時で、平成20年から施行されました。その前1年が試行期間ですから、「多可町どうするんや」「兵庫県どうするんや」といろいろなことがありました。多可町で一番揉めたのは、例えば中町が使っていた文化会館の位置付けを多可町全体のものとするということになり、当然こうなってくると予算化のこともあるし、維持、発展させなくてはいけないということで、教育委員会では重た過ぎるのではないかということでした。それと、社会体育です。非常に範囲が広すぎて、一つの教育委員会の中で一人の担当でできるのかということになりました。また、人権についても、学校人権或いは社会人権があり、三つの町のいろいろな違いがありましたので、これは本当に全町を挙げて総合的に関わらないといけないのではないかということでした。平成20年の教育三法改正の中に、スポーツ、文化行政、人権も含めてですが、移管ができるという制度がありました。それについて教育委員会を開いて検討してもらったり、町長との懇談をしたり、最終的にはこの三つを移管しております。だから、現在も教育委員会での社会教育委員会は連携して会議もしておりますし、生涯学習課の推進会議には社会教育委員会からも説明します。唯一社会教育の場、地域全体の集会場所としての公民館（プラザ）は生涯学習課に移りました。ですから、今現在、地域の社会教育の中で子どもの関係はほとんど教育委員会が行っているところですが、土曜チャレンジやいろいろなふるさと教育などコロナ禍を超えて実施し、伝統文化、子ども教室などに関わってきています。そういう意味で言うと、細分化はされたけれども連携のもとに行っているということは何も変わらないし、社会教育や生涯学習が求めている基本の流れ、社会教育自身も持っている基本理念は変わっていないのですが、ただやり方が少し変わってきているということになります。

また新しい考え方が取り入れられてきていますので、本当になかなか難しくはなっていて、社会教育を取り巻く変化も実は大きくなってきています。地域にある社会教育関係団体などはものすごく影響を受けていると思います。婦人会、老人会（長寿会）など地域によっては解散されているところもあります。解散というよりも発展的と言われていると思いますが、今の社会を取り巻く五つの変化があると思います。

伝統的文化活動は趣味趣向の変化により非常に減ってきています。お茶とかお花などは公民館講座にも影響してきていると思います。

それから体育活動、スポーツですが、競技的活動から健康づくりに、いわゆる厳し

いものではなくウォーキングや散歩などゆっくり行う形に趣向が変わってきております。それから、活動趣向の変化もあると思うのです。集団的な活動よりも個人の活動の方が楽だということ、人と話すのはしんどいということ。実はこういうことは長寿会がなくなる背景にもありました。

それから就労期間が非常に変わってきています。定年延長や働き方の多様化もあるから、このあたりのことも今地域を取り巻いていることになります。

また、社会教育活動では人材の確保も難しくなっています。社会教育活動をしている地域の人々の引退という問題も考えていけないと思いますし、地域住民の間の人間関係は薄くなっており、頼みに行けないし、人材バンクでもなかなか登録ができていないというあたりの問題があります。

それから最後になりますが、活動形態の多様化があつて、既存の地域団体子ども会や青年団も弱体化してます。少子化、希薄化という中で、子ども会などでも勢いがなくなり活動もしんどくなってくるし、役員を何年もしないといけなくなり疲れるということになります。

最終的に思うのは、今の時代はある程度距離をとった緩い繋がりになっていて、社会全体に無責任というわけではありませんが、やはり距離を置くというところがあり、社会教育活動で地域・家庭連携の中での難しさを感じるどころです。以上です。

町長：ありがとうございました。大変難しい問題をいっぱいご報告いただいたと思います。続きまして、学校現場の方から校長先生、よろしく願いいたします。

○学校現場

学校長：学校現場からということでコミュニティ・スクールの取り組みを中心にお話させていただきます。

まず学校の現状ですが、コロナウイルス感染防止ということで令和2年から2年間、全く学校に誰も入れないというような状況がありましたので、地域との連携というのはすっかり低迷してしまっている状況です。昨年度からコミュニティ・スクールの取り組みを始めましたが、学校だけでは実行するのに躊躇するといった部分がコミュニティ・スクールのおかげで思い切って一歩踏み出せ、大きく前進し始めたというところが、本校にとっては非常にありがたい取り組みになっております。

はじめに、学校運営協議会の情報交換の中から地域の問題がいろいろと出ました。加美区は横断歩道の前で止まらない車が多いというようなお話があつて、そうやって校区内を見た時に、スクールゾーンや横断歩道が近くにあるとか、通学路を示すといった看板が要所要所にあるのですが、それがもうすっかり色あせて消えてしまっているというようなことがありました。学校の中にいたのではなかなか見えない部分なんです。情報交換するとそんなことが見えてきて、昨年度早急に学校運営協議会から町長宛てに要望書を提出させていただきました。早急に対応していただき、全てはっ

きりした文字になって、非常にありがたく嬉しかったところです。

それから学校の困り事として3点、協議会で課題を共有させていただきました。

まず一つ目に町費負担の学習補助員（スクールアシスタント）が欠員したままスタートしておりましたので、困っているということ。

二つ目に校庭の除草作業に手が回らないということ。もう草の成長に追いつかず、刈っても刈っても追いつかないということです。

三つ目に松井小の挨拶の活性化。ここに問題があるのではないかとということで、皆さんと情報共有させていただきました。

まず一つ目の町費負担の欠員につきましては、すぐに協議会のメンバーから紹介があり、それがきっかけでどんどんと進んで欠員が埋まり、非常にありがたかったところです。

校庭の除草作業に手が回らないということにつきましては、学校ボランティアを募集してはというようなご意見をいただいて、除草作業だけでなく、他に困っていること（図書ボランティア、見守りボランティア、環境整備）も併せて、校区内にチラシを配布させていただきました。現在、図書ボランティアに約10名、見守りボランティアに約10名、環境ボランティア約10名の合計30名の方がボランティア登録をしてくださっております。図書ボランティアにつきましては、毎週火曜日図書室にやってきて本の整理やディスプレイのチェンジ、掲示物の作成とか、1・2年生の授業に入っていて本を読みを毎週行ってくださいます。それから、図書室のガラスにフィルムを貼った方がいいという提案をいただいてガラスにフィルムを貼ったようなこともありました。

それから見守りボランティアにつきましては、なかなか人が増えなくて松井庄地区では見守りボランティアが少ないということもあって、防災無線で「今から下校します」というような放送を流しているのですが、ジャンパーや帽子などのスタッフの目印は敬遠される方もいるのではないかとというようなことがあり、手に持つ黄色い旗なら、暑い時でも寒い時でも問題ないということで黄色い旗を配布することになりました。その黄色い旗も何かオリジナリティというか、特別感を出す方がいいというようなことも話し合いの中で出まして、一緒にデザインを考えていただいて出来上がったのがこれです。宣伝のために持ってきました。こんな旗を作らせていただいて松井小のスタッフですよという特別感をもっていただき、ボランティアを増やそうという取り組みをしております。

それから環境ボランティアにつきましては、去年も今年も8月に除草作業をしていただきました。また、グラウンドから歩道とか川に、樹木の枝が出るんですが、その枝打ちもしようということなので6月には枝打ち作業までしていただきました。

三つ目の課題ですが、挨拶の活性化です。コロナがあって、人との距離を取らないといけないとか話をしたらいけないとか、そんなことが逆風になってなかなかコミュ

ニティが減っているなどというところがありました。それから学校は日本一の挨拶運動に取り組んでいるのですが、意外に地域は学校がやっていることを知らないというようなこともあって、一緒に力を入れてしようかということになりました。挨拶が活発な学校、松井庄地区になるように学校から仕掛けたらどうかという提案がありまして、挨拶を学校内だけでなく校区内で展開しようというような話し合いができ、今年初めて啓発チラシを校区内に配りました。ただ1回ではなかなか周知できないので、3年計画で松井小は校区を挙げてこんなことをしているとわかったらいいかなという長期ビジョンに立って地域でこんな活動を始めております。コミュニティ委員さんが校門で挨拶当番をしてくださるなど今までにない動きが出てきております。

学校だけではなかなか一歩踏み出せなかったところがこのコミュニティ・スクールの取り組みのおかげで背中を押していただいているというのが、学校にとっては非常にありがたい取り組みです。以上です。

(2)意見交換

町長：ありがとうございます。これで関係機関からの現状報告は終わります。

それでは、次に意見交換に入ります。これまでの説明の中で、何かご意見質疑等ございませんでしょうか。

学校と地域の壁ということを最後におっしゃっていたと思いますが、もちろん3校統合したことによって物理的な壁ができ、距離的には遠くなったと思うんです。その後、コミュニティ・スクールという形で進めていただいておりますが、コミュニティ・スクールによって、その壁が下がったということはないのかと思うのですが、どういう感じですか。

学校運営協議会会長：何とかそれを実現したいのですが、コミュニティ・スクールで何かをするということはやはりなかなか難しいです。学校の応援団という形でスタートしてますし、学校にはもう一つ、PTAという組織があります。コミュニティ・スクールの半分はPTAですから、PTAの行事の他に何かを新たにもつということは非常に難しいというのが現実です。だから、コロナの前に、PTA主催でふれあい活動という1日か半日ぐらいでいろいろなことをやっていたので、便乗してコミュニティ・スクールも入っているという形で参加しましたが、主体になって動いているのはPTA役員です。かといってコミュニティ・スクールで何かをすれば、時間が取れないし、難しい問題があります。物理的なことが多いのと、少子化も影響しています。孫や知り合いがいなかったら、来る人も減りますのでね。一般的な傾向としては、人数も減ってだんだん学校が遠い存在になりつつあります。気持ちの中ではコミュニティ・スクールを中心に集まれるような機会、何か行事をもちたいなという思いはありましたが、それを実行に移すのがなかなか難しく、学校の困っていること、助けてほしいようなことを我々が応援するのが一番無難なところかなということで、子どもたちと直接関わるというのが少なくなりました。

見守り隊については、以前からずっと行っていたんですが、バス通学になりましたから、熱心であった西小学校、北小学校の見守り隊の人たちの実行する場が減ったのでやめさせてほしいという方がありました。あるいは、新しい人がなかなか見守り隊に入ってくれないという問題があります。もう10年、20年ほど続けていた方もありますし、今も自主的にやってくださっている方もあります。松井小学校の方式で、放送を入れてはという意見が以前からあり、今年から始めています。

やはり一人一人の気持ちとしては、子どもが通っていなかったら、卒業した学校は懐かしいけれども、今の学校で知らない子ばかりだから、行きづらいというのもあるかと思います。だから、地域の人々の参加というのは、そんなに多くないと感じております。

町長：ありがとうございます。今ご意見いただいた中で、PTAとコミュニティ・スクールの地域コミュニティの関係に対して教育長、何かありますか。

教育長：やはり、いろいろな組織自体がだんだん弱体化してきて、すごく絆が弱くなってきているというのがあると思うんですね。持続可能な社会の実現ということがキーワードになっていますが、今、PTAも役員のみになり手がなくなっていることで苦しんでいるような状況です。あらゆる組織で組織疲労を起こしているような状況で、曲がり角に来ている社会なのかなと思っています。それを我々は手をこまねいて見ているわけにはいけないと思うのです。未来をひらいていく子どもたちを育てていけない。学校だけに任すのではなく、できたら地域も関わっていくことで地域も元気になるのではないかということが言えると思います。西小学校と北小学校の例が出ましたが、やはり地域に子どもたちの声があって活動している姿を見ていると、地域の方は元気になって、関わってやろうというようなことが出てくると思うのです。

今日午前中に、教育委員さんと森のようちえんの園訪問に行かせてもらいました。多可町ならではの、園舎を持たず自然の中で保育・教育をされている園です。東安田のいぶきの森で活動されていました。保育士さんに話を聞いたのですが、「東安田の地域の方が子どもたちのために黒豆の植え付けや収穫体験に行きませんかと誘ってくださって、子どもたちも大喜びで行ってるんですよ」と言われてました。やはり、子どもたちの顔が見られることによって、地域の方も嬉しいという思いでそういう活動をされているのではないかと思ったのです。

これから課題解決するには、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会というのは町内どの学校にもありますから、そこがきっかけづくりをしていただいて橋渡しをする中で、ウィンウィンの関係をいかに作っていくかが大切です。先ほど校長の話にもありましたが、学校はすごく助かっている部分がありますので、今度は地域の方へ学校の子供たちが出かけて行って、何か役に立つようなことが先生の負担なく持続可能な形でできないかを考えていくことが、学校・地域・家庭の連携を進める上で大事ではないかと思っています。

町長：ご意見をもう少し賜りたいと思いますので、教育委員の皆様から一言ずつお願いいたします。

委員：先ほどお三方の話を聞かせていただいて、感じたことは現場の生の声が聞けたということでした。案外、言葉とか文章だけで形は作れるものですが、今お聞きした現場の話、本当に難しい課題かなというようなことを感じました。コミュニティ・スクールから、社会教育の立場から、学校の立場から聞かせていただいて、難しいけれども不可能ではないので、進む先を見つけて1歩でも2歩でもいいから前に進むという気持ちや姿勢が今、問われるのではないかと思います。大勢が参加してくれないからやめておこうということではなく、今まで続けておられることをできるだけ持続させることが非常に大事かなと思います。この前、村の人権学習会に行かしてもらったのですが、恥ずかしながら参加者は少なかったです。人権学習というのは一人一人の心の中の課題であるということをやっと意識するかしらないかによってずいぶん変わってきます。今、各団体のお話を聞きましたが、気持ちの理解の仕方がもう一押しかなということを感じました。一步一步笑顔で進む。小さなことかもしれませんが、挨拶運動から始めていくとか、そういうことでもいいから、今の勢いを、気持ちを、熱を前に伝えていくということが大事だと思いました。今日話を聞かせていただいて非常に勉強になりました。ありがとうございました。

委員：子どもが八千代北小学校へ行っていた時は、毎年ふれあいまつりには、孫がいない関係なく地域のおじいさんおばあさんに呼びかけをして来ていただいて、竹とんぼや風車をみんなで作ったりしました。一番楽しかったのは、親子とおじいさんおばあさんと班を作って、みんなでグランドゴルフをするということでした。すごく楽しくて、毎年して欲しいなと思っていたのが、だんだんなくなっていったんです。その頃はどちらかという、普段学校に来ることができないおじいさんおばあさんに学校に来てもらおう、という感じの立場で過ごしていたような気がするんです。地域の人という、おじいさんおばあさんが学校に来て何か手伝ったりしてくれるというような感覚でいました。

やはりどうしてもおじいさんおばあさんは何年も経つと、それぞれ高齢化されていくので、今度親世代が、子どもが卒業して学校に関わらなくなった時に、地域の人として動けたらいいんですけど。多分若い人には地域の人と言ったらおじいさんおばあさんというイメージがあり、誰かがしてくれるだろうという安心感があって、自分たちがしないといけないという気持ちがあまりないんじゃないかなとは思いました。

八千代区は、北小学校、西小学校でそれぞれ地域との繋がりが強くて、三つの小学校が合併して一つになる時にまとまるのは大変じゃないかという話がよく出ていたと思うんですが、そこら辺は特に大きな問題はなかったのでしょうか。

学校運営協議会会長：なかなか難しい問題ですね。特になかったように思いますが、個々に見ていけば、そこから来ているのではないかというような問題もありました。

与えられた状況の中で精一杯のことをするというのが学校の教師の役割ですので、それ以前の段階でも、このままの方がいいとか、一緒にやった方がいいと会議の中で示されることもありました。どっちも良さがあるというふうに私は答えてました。今言われたようなことで思い出すのは、八千代西小学校の場合は運動会が独特で、プログラムは同じようにあるわけですが、PTAの役員が半分ぐらいお手伝いしないと運営できないんですね。教師だけではとても無理なので、綱引きのロープは全部出して片付けてくれるというような感じ。おじいちゃんおばあちゃんも参加していますから、地域を挙げてのそういうイベントが両小学校ともなくなってしまう、というのは寂しいと感じます。それらがどういうふうに教育に関わってくるか、そこまではわかりませんが。これは仕方がないことであって、人数が増えることによって、できなかったドッジボールができるようになるとかそういういいこともあります。当初はクラス替えもありましたが、今はほとんどクラス替えがありません。そこまで減るとは思わなかったというのが実感です。これから、どこの学校もそういうふうになってきますので、教訓を次に活かせるならいいなとは思っております。

委員：先ほどからいいお話を聞かせていただきまして、私、恥ずかしいかなコミュニティ・スクール（学校運営協議会）に関しまして、まるで無知だったなと思うんです。松井小学校の学校訪問の時に、校長先生が「校区に下校の放送をするんです」という話をされたことがすごく耳に残っておりまして、今お話されたことと繋がりました。今お三方の話を聞かせてもらったり、また資料を見せていただいたりして、「地域って大事なんだよね。学校って地域があってこそその学校なんだよね」ということ、「地域と学校というのは絶対に離してはいけないんだ」ということを本当に強く感じさせていただきました。

そして、その奥にはいろいろな問題があるかと思いますが、一步一步前に進むことによって、かすかな動き、本当に微々たる動きかもしれませんが、それが実を結んでいく可能性が高いと思います。たとえ実を結ばなかったとしても、将来的に持続可能な社会という形で多可町が生き残っていけるようにという思いから、やはりコミュニティ・スクールの基本をしっかりと見直して、各学校、各地域で互いに良いところは取り入れていくという方向が一番なのかなと思いました。

本当に地域によっては、老人会もおしまい、婦人会もおしまい、といろいろなことが、人数のことであったり、地域の希薄さみたいなどころから薄れている中ですが、子どもは絶対に大事です。次の時代を担う子どもたちですので、多可町を挙げてみんなで見守っていきたいと思います。子ども会やPTCA、このコミュニティ・スクールというような重要な会をみんなで何とか頑張っていきたいという思いに駆られています。私自身何も活動できておりませんが、もし仮に機会があれば大いに参加したいと思っています。

今、地域で「ふれあいカフェ」というのを十数名のスタッフとしているんですが、月1回、200円で喫茶店をしているんです。そこに5年生の孫が友達と一緒に来て、今度クリスマスツリーをしようというので、誘いかけているんです。七夕には、「みんな短冊を飾ってよ」とか、「何かできるかな」と言うと、この前もビーズでキーホルダーを60個ほど作ってくれました。友達と一緒に、ビーズで作ったものを来た人にあげたり、いろんなことを子どもたちを巻き込んで一緒にしています。何か私にできることはないかなと思って、今少しずつですが、始めているんです。

とても大事な勉強会になるので、総合教育会議は、私にとってはプラスな会議だなと感じました。ありがとうございました。

委員：この会議の場で進めていく大きな活動の概念の中で、まず一番中心にあるのは、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みをどうやって今から充実させていこうかという、そこが最終ゴールという形で話を聞いたり意見を述べたりしたらいいのかなと思って、ずっと聞いていました。多分古くて新しい問題で、私たちが子どもの時も地域の中で育ててもらったことは多々あるだろうと思います。ただ、今の子どもたちの地域の現状は非常に違っているんだらうなというところで、その中で一番大きいのは、やはり子どもの数が減ってきたことが一つ、それとあわせて高齢化が進んできたというところかなと思います。

人と人との関わりが私たちが子どもの時から比べれば、少し希薄化というか、回数が少なくなってきた、地域の中で声を掛け合うことが非常に稀になってきています。私たちの時であれば、学校の帰り道に誰かしら大人がおりましたので、声をかけたり、悪いことをして帰ろうかなと思ってちょっとブレーキをかけたりできていました。今は帰ってきた時に、家の外に誰もいないんですよ。子どももいません。子どもたちがいることは確かでしょうし、集落の人もいることは確かなんですが。やはり声を掛け合うことが少なくなってきた中で、大きな器を作りながら、今からの未来の人たちをどう支えて育んでいけばいいのかなと時々考えることがあります。その中で、自分の思いとして一番はっきりまとまらなかった部分を、今日社会教育委員長がずっと九つほどの項目を挙げてくださっていました。文化活動がもう伝統文化そのものではなく、テレビやインターネットに最新の影響を受けたようなところが中心になっていくし、そんな中で文化活動をどのようにしていくかという話もありますし、一番は引退のことです。地域活動では引退が一番大きなところで、いつまで続けるのかということがあります。また、新しい人をお願いをしても、仕事がシフト勤務で日曜日は休めないのだから参加できないなど、多可町近郊での就職の関係もあるように思います。草刈りや溝掃除など村の共同活動をして、その日は仕事だからと言われるし、祭りでさえそれが出てきます。就労形態も変わってきているし、やはり高齢者をずっと引っ張り続けることもなかなか難しいなという思いもあったところを、お話を聞いて、きっちり整理させていただきました。

その中で一番印象に残ったのは、緩い人の繋がりが今からは大切になるのかなというところで、今からは深い繋がりとか、きっちりした繋がりとということではなかなか人は寄ってこないだろうと思います。緩い繋がりとというイメージの中で人を繋げていって、距離を身近にしていく中で、今からの大きな器を作り上げていかないといけないのかなと思いつつながら、お三方の話を聞かせていただきました。

コミュニティ・スクールの話の中で、子どもたちが帰る時に「今から帰ります」という放送を始められたということでしたが、子どもたちとしては多分意識していないと思いますが、「地域に帰りますよ」という言葉を地域の人たちが聞いて、自分たちの地域の子もなんだという意識をもっていただけるような活動になっていると思います。それが一番大切なところであって、きっちりバトンを渡すということではなくて、少し緩い中でしっかり子どもたちを受け止めるための一つの方策なのかなと思つて、お話を聞かせていただいてありがたかったです。以上です。

町長：委員の皆様方のご意見を賜りまして、ありがとうございます。この後、「連携を深めるためにはどうすればいいのか」について意見交換ということになっております。難しいテーマだと思つますが、よろしくお願ひします。地域と学校との連携は大変だということが話の中心になっていたかと思つます。社会教育委員長の話は本当に身につまされることでして、やはり何か考えなければならぬと思つたんです。

松井小学校のボランティア30人はどんな方々なんでしょう。

学校長：まず図書ボランティアですが、ほぼ保護者の方で女性中心です。メンバーの一人は本当に図書が好きで、「整備だけなら来たくない。子どもたちと関わりたい」と言つてくださっていて、学校も喜んで来てもらっているし、ボランティアの方も本当に喜んで来てくださっているのので、ウィンウィンの関係になっています。

見守りボランティアにつきましては、やはりおじいちゃんおばあちゃんを中心になっています。朝であると老人会が当番制で立つてくださったりということもあり、見守りについては保護者は少ないです。

環境整備につきましては、男性中心のチームで、お父さんとおじいちゃんというような構成になっております。

町長：ありがとうございます。気になったのは教育委員がおっしゃっていた以前は子どもとおじいちゃん・おばあちゃんがみんな一緒に学校行事に来てたけど、今はなくなったと。地域というと、おじいちゃん・おばあちゃんが多いのなら、PTAと地域のコミュニティ・スクールとが上手くいくためには、おじいちゃん・おばあちゃんと両親が上手くいくことが大事なのかなと思つたんですが、いかがですか。

学校運営協議会会長：そういうことが多いです。社会教育団体もいろいろありますが、何かの大会に行くなど平日の事業が結構ありますので、中間の人たちは仕事で行けない

ということがよくあります。今おっしゃったことが、そういうのに通じてくるのではないかと思います。

この資料に記載されたコミュニティ・スクールの仕事の中に、「学校運営に関する意見」、「教職員の任用に関する意見」とあります。学校運営については、どんなことをしているのかということ年度当初に校長の方から説明を受けて、意見を出したりするということはあるのですが、職員の任用については、やっておりません。PTA役員が半分、地域から出ている者が半分のコミュニティ・スクールで、これをする必要がないと考えております。

先日喜寿敬老会があり、参加しました。同級生たちと一緒にテーブルになっていたんですが、そこに卒業生かどうかわからない男性がいましたので話をしたら、実は18年ほど前に移住された方でした。仕事の関係で頻繁に多可町へ訪れていたということでした。当時住まれていた地域では非常に学校が荒れていたそうで、多可町へ来る度に、信号のところで子どもと会うと挨拶をしたり、渡ったら礼をしたりして、そんな姿は見たことがなかったということでした。それがきっかけで、こちらに移住することを決められたそうです。いい話を聞いたなと思い、大変うれしかったです。たかが挨拶、されど挨拶。それが人口増に繋がっているという一つの例です。松井小学校が挨拶運動をされていますが、やはりそれらが持続可能な村づくりの一端を担うかもしれませんし、挨拶のできる子ども、挨拶のできるまちということで繋がるかもしれないと思ったので、今思い出して言わせていただきました。

町 長：いい話をしていただいて、ありがとうございます。

実は、資料を見て少し疑問に思っていたんですが、コミュニティ・スクールと学校運営協議会の仕組みについてはどうなっているんですか。

学校教育課長：学校運営協議会は協議をしていただく場で、その場を設置している学校がコミュニティ・スクールと言われています。だから、実際動いているのは学校運営協議会ということになります。

町 長：学校運営協議会が、コミュニティ・スクールでPDCAをまわすということですか。

学校教育課長：中心にあるのが学校で、例えば実際に地域から学校が助けられている部分は地域学校協働活動という部分になります。地域学校協働活動というのは、多可町では以前から元々学校を助けてもらうような仕組みがあり、ずっと続いていたんですが、学校運営協議会を置くことによって、その活動自体をチェックしたり、もっとできることがないか協議したりしています。学校だけでなく地域の方にも入ってもらい、地域の方の繋がりから活動の輪を広げていって、グルグル回すようなサイクルができるということで、国の方がコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的運営推進を推奨しています。

教育長：私の理解なのですが、補足させていただきます。

Pはプラン、計画を練るということですね。Dはドゥ、実際に行動に移すということです。Cはチェック、それがいいかどうか評価したり直したりすること。Aはアクション、チェックしたことを基に改善していき、改善したことを基にまたプランニングしていくというサイクルで、ずっと回っています。その中のプランニングというのが一番大事な部分で、方向性を決めていくところですね。これが学校運営協議会の一番担っている部分だと私は考えているんです。ですから、この部分に学校運営協議会が位置づけられていて、学校の困りごとや地域の困り事を共有化して、どうしていいかとみんなで熟議します。一生懸命考えて方向性を出して、誰がそれを担っていくのかを実際に決めて、Dのところへ移していきます。「幅広い地域住民や団体等の参画」とありますが、どういう人たちが担うかという部分で、実際に活動して、学校評価でどの程度行われたかチェックして行って、またアクションに繋いで、回していくということになります。この一番大事なこれからの方向性、困りごとを解決していく方向性を協議していく学校運営協議会を作り、学校や地域を活性化して行って持続可能な形にしていきたいと思いますというのが、コミュニティ・スクールであるということだと理解しています。

社会教育委員長：1枚目の資料の図で、社会教育を取り巻く状況がまとめられています。

図の中の団体とついているところには規約があります。これは行政的にも必要なことですし、法律で決められている団体もあります。しかし、それを地域にもっていくと人が集まりにくくなるように思うんです。規約とかではなくて、同好の者が集まって一緒にしようというような緩やかな繋がりも一つの方法だと思うんです。今、社会教育に求められているのはその辺りではないかと思います。団体も必要ではありますが、現実には今の多可町を見ると、団体に入ってほしいというのは逆行するようなことになるかもしれません。十分背景を研究して、政策を作るときも、実態把握が大事だと思うんです。

今日、子どもたちの下校の放送の話が出ましたが、実は昔もしたかったのですが、誘拐があるのにわざわざ帰る時間をいうのかとクレームがあったんです。そこで平成18年頃、町長と話をさせてもらい、青パトを巡回させるようになりました。警察から制度について紹介を受けて始めたのですが、効果があり、今も続けていただいています。こういう活動がしたいと思ったら、行政には環境づくりや条件づくりをしていただいたら、地域の活動がしやすくなると思います。こういう縁の下の力持ちの行政施策も必要ではないでしょうかと思います。20年間も過ぎて、シルバーさんという人材もいてくれたから、ずっと3台の青パトが町内を回っていて、ありがたいと思います。

町長：現在も青パトは巡回していて、来年もあります。

他にご意見がありましたら、お願いいたします。

委員：「誘拐犯を助長するような放送をしないでほしい」という見方もあるようですが、地域によって状況が違うので、多可町の場合は放送があつていいなと思っています。放送が流れることによって、私たちの町に子どもがいるという意識が年配の方にも、おうちに子どもさんやお孫さんがおられなくても、「学校の子が帰ってくるんや」ということが毎日伝わってくるんです。それが年配の方の励みというか、喜びというか、そういった角度で聞こえたらいいと思います。ただ防犯とか不審者対応だけの問題ではなく、放送を地域に住んでいる者が耳にすることで、子どもたちに目が向き、耳が向き、意識が向く。そういうことも、放送によって生まれていると思うんです。

それともう一つ、松井小学校の図書室はきれいですね。喜んでみんなが入りたくなるような図書室でびっくりしました。

あと一つ、今は先生方が村の行事などに参加される機会はほとんどないですね。案外、先生方が地域に出られるという光景を見ないなと思ひまして。不審者等の関係で校門がバチッと締められたり、何年か前からはコロナ禍というようなこともあり、本当に学校への出入りが遠ざかってしまったかなという感じはします。そんな中で、放送や挨拶は村づくりの小さい小さい基本かなということをおもひました。いい話を聞かせてもらいました。ありがとうございました。

教育長：私はウィンウィンにこだわっているんですが、やはりお互いにいいことがないと、持続可能な形にならないと思います。ですから、学校・家庭・地域の連携をより密接に深めていくためには、さっき話に出た図書ボランティアさんのように、お互いに良かったなということが持続可能な形なのではないかと思ひます。

学校から地域にどういう形で出ていったらいいのかということですが、私はやはり子どもたちがそこへ行って地域の人何か役に立つような活動をすることによって、子どもたち自身は自己有用感、自分は人の役に立って嬉しかったというような気持ちが育まれてすごくいいと思うんです。小・中学生が積極的にそういうボランティア活動ができるような仕組みをつくる必要があると思ひます。これは自分から地域に出かけて行って、それぞれの子どもたちがする活動ですから、地域にその受け皿があつて活動場所があつたらできるわけですから、学校はそれを大いに推奨してもらえたらと思ひます。地域の人からこんな反応があつて、こんなことで喜んでおられたということをおもひてもらふことによって、地域の人喜んでおられる様子が子どもたちにも伝わり、自分も行ってみようかなという気持ちになります。また、お互いに顔の見える関係になり、学校・家庭・地域の連携がうまくいくと思ひます。おうちの人も喜ばれるし、子どもいいところに気づいてもらえるので、ますますいいのではないかなと思ひます。

ボランティアではありませんが、播州歌舞伎クラブもそうした活動の一つだつたと思ひます。中町北小学校では播州歌舞伎クラブがなくなりましたが、ボランティア精神で、地域にどんどん出かけていくことをこれから進めていくべきかなと思ひました。

町 長：地域との連携で、子どもたちが地域に入って活動するというところが大きなキーワードだと思いますし、今日、学校運営協議会会長のご意見をいただきましたが、難しいポジションであるというのは実感しました。町内全小学校で導入しているということで、会長さん方は多分同じような気持ちではないかなと思います。また、教育長からもPDCAの話をしていただきましたが、それを学校運営協議会が実行していくことについては大変だろうと思いました。PTAと地域の関係性を整えることで、この活動が上手くいくのではないかとも思います。そして、子どもたちが地域に貢献することになれば、一つ大きな成果が出るのだろうと思いました。

日程第3 その他

町 長：次に日程第3のその他にさせていただきます。事務局含めて、その他何かありますでしょうか。

それでは、本日の予定しておりました総合教育会議の議事日程は全て終了いたしました。誠にありがとうございました。

【閉 会】 町長 午後4時30分 閉会宣言

令和5年11月22日

----- (印)

----- (印)